

## 令和元年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会議事録

1 日 時 令和元年7月2日(火)午前9時30分

2 会 場 大洗文化センター 大会議室

3 内 容

### <事務局>

定刻となりましたので、要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、本日の進め方について確認させていただきます。

本日の第2回選定協議会につきましては、小学校用教科用図書の審議を行います。その後、諸連絡を行います。

それでは、「開会のことば」を 本選定協議会副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様お願いいたします。

(1)開会のことば 副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様

(2)教科用図書選定協議会会長あいさつ

### <会長>

本日は、令和元年度第4採択地区第2回教科用図書選定協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。先般の第1回選定協議会では、日程、調査部会、第2回及び第3回の選定協議会の確認等をお願いいたしました。本日は、第2回の選定協議会ということで、小学校部会の調査活動報告をしていただき、採択に関しての議事を進めてまいります。教科数が多いため時間を区切って進行させていただきますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

### <事務局>

ありがとうございました。

それでは採択についての審議・議決に移ります。

採択についての審議については、本選定協議会規約第9条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。飯島 会長、よろしくお願いいたします。

### <会長>

それでは議事に入ります。議事の進め方ですが、各教科ごとに審議及び議決していきます。教科の順番は、国語、社会、理科、家庭、生活、外国語、算数、図画工作、保健、音楽の順で行いたいと思います。

各教科の議決までの流れでございますが、最初に、調査部会からの報告をいただきまして、調査部会への質疑となります。各部長が報告をしますので、ご質問がある場合は質疑をお願いいたします。その後、部長が退席した後に、審議・議決をいただいて、採択理由書の検討をしていただき進めてまいります。

それでは、はじめに国語調査部会からの報告をいただきたいと思います。事務局は、調査報告書

と国語の教科用図書の見本本の配付をお願いいたします。

## 調査報告書, 教科用図書見本本配布

### 国語調査部長入室

<会長>

それでは、国語部会の報告をお願いします。

<国語調査部長>

小学校国語部会での調査内容についてご報告いたします。

小学校国語部会では、「東京書籍」、「学校図書」、「教育出版」、「光村図書」の4社について調査を行いました。その結果をまとめたものがお手元の資料です。

それぞれの教科書に学習指導要領の教科目標達成のための様々な工夫や配慮がされておりました。特に日常生活に必要な国語についての知識とそれを理解し適切に使うための技能の観点からどのような特色が見られるか説明させていただきます。

まず、「東京書籍」では、年度当初に書くこと「情報の扱い方」系統の小単元を位置づけ、情報の扱い方における知識及び技能の基礎を身に付け、以後の学習に役立てられるように配慮されています。

次に「学校図書」では、読解教材の後に「学習の手引き」として学習の流れを手順と共に明記し、見通しを持った学習展開ができるように配慮されています。

次に「教育出版」では、単元末に言葉について学習したり、言葉に関する小単元を多く取り入れたりし、学習の過程を「確かめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」としているのが特長です。

次に「光村図書」では、「情報」教材を系統化し、文章理解や自分の考えの表現を伴った部分で習得・活用できるよう配慮しており、他教科や日常生活の場面と国語学習の関連を示している点に特色が見られます。

続きまして、調査をしていく中で特に話題となった2社「東京書籍」と「光村図書」の教科用図書についてさらにご説明させていただきます。特に新しい学習指導要領でポイントとなる点についてお話いたします。

主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫についてです。「東京書籍」ですが、各学年の最初に「話すこと・聞くこと」の「対話」の小単元を設け、友達との対話を通じてお互いの考えを広げたり、深めたりする学習を位置づけ、対話的な学びの基礎・基本となる力が身に付けられるよう工夫されています。

次に「光村図書」ですが、巻頭に「国語の学びをみわたそう」として「初めに」「読む・書く・話す聞く」「ふり返る」「学習や生活に生かす」の過程が、単元末には「とらえよう」「深めよう」「まとめよう」「広げよう」の学習過程が示され児童の主体的な活動につながるように配慮されています。

次に、「伝え合う力」を高めるための配慮ですが、「東京書籍」では各巻の巻頭に当該学年の「言葉の力」を見通す、例えば「1学年で学習する言葉の力」や、1から4年生の下巻の巻末付録には上巻で学習した「言葉の力」をふり返る、例えば「4年生上で学習した言葉の力」を設け、「言葉の力」の系統やつながり伝え合うためのいろいろな方法などを提示しています。

「光村図書」では伝え合う力を高めるために1学期には傾聴する姿勢づくり、2学期には話し合い、3学期にはスピーチを位置づけ、学年の発達段階に合わせながら、伝え合う力を高める工夫がされています。

最後に特別な支援が必要な児童や、児童が学びやすくするための配慮ですが、東京書籍では本文には見やすく文字の指導に教科書体を独自に開発し使用しており読み書きにつまづきを抱えやすい児童を支援する視覚や動作化を取り入れた指導モデルが取り入れられています。

1年生上60頁をご覧ください。小さい「つ」が入る言葉についてですが、猫と根っこなど小さい「つ」が入ることによって読みづらくなってしまう児童がいます。そのことから、手をたたくなど、様々な動作を入れて具体的に視覚化していくことになります。これが、1年生の導入期に発音、拗音、長音が取り入れられていることが、調査員の中で新しい試みではないかといった意見がありました。

68頁(伸ばす音)をご覧ください。おばさん、おばあさん、おじさん、おじいさんについても、手をたたきながら言ったり、手の動作と同じように発音したりすることにより、伸ばす音、伸ばさない音を読み書きが苦手な児童でも取り入れることができ、そのような工夫が見られました。

「光村図書」では1から4年生では上下二冊分、5から6年生は1冊の教科書を年間通して使用するようにし、1年間の見通しが持てるよう配慮されています。

以上のように当調査部会としましては、この2社の教科書はそれぞれ優れた点が多くあり、独自の配慮や工夫がされている内容であるとの結論となりました。

以上で小学校国語科についての説明を終わります。

続いて「書写」についてご説明いたします。

書写は「東京書籍」、「学校図書」、「教育出版」、「光村図書」、「日本文教出版」の5社の調査を行いました。学習指導要領の教科の目標を達成するために、次の観点について各社の特色を申し上げます。

観点1 文字を形や筆順に注意して正しく書くこと、

観点2 組み立てを理解し漢字や仮名の大きさ配列に注意して書くこと、

観点3 文字の大きさや配列書く速さや穂先の動きを意識して書くことです。

初めに「東京書籍」ですが、1・2年生が点画の書き方や文字の形、筆順などに注意しながら正しく書くことができるようにするために始筆・終筆をマークで示したり、筆順を色別に示したり、「書写のかぎ」を掲載し、点画の書き方に注意できるように配慮されているところに特色が見られます。

次に「学校図書」です。低学年の指導で、点画の大事なところを確かめて書けたら、巻末のシールを貼るこ

とや、筆順を6つの原則に分けて整理し、数字や色別で示してすることで正しく書ける配慮がされています。

次に「教育出版」です。低学年では色分けや矢印による示し方だけでなく、「とめ」「はね」を赤丸で囲み、イラストで点画の書き方に注目させ正しく書けるよう配慮されています。

また、数字で筆順を示し、筆順の原則を4つ示しているところに特色が見られます。

次に「光村図書」です。3・4年生の中学年が文字の組み立てを理解するために、部首と元の文字を朱書きしたものを重ねて示すことで違いに気付かせ、文字の形を整えて書くことができるよう配慮されているところに特色が見られます。

最後に「日本文教出版」です。高学年5・6年生の筆使いの指導で、筆使いは補助線や矢印で示し、文字の大きさは点線で囲んで示すことで、視覚的に捉えられるようにしています。

また、文字の配列は黒線、外形については青線を用いて捉えやすくする工夫が見られます。

どの教科書にも様々な工夫や配慮が見られましたが、調査をしていく中で特に話題となった2社「東京書籍」と「光村図書」の教科書についてさらに説明をさせていただきます。

特に自分に課題を発見したり、日常生活に生かすといった観点についてご説明いたします。

「東京書籍」では「生活に広げよう」において名前の書き方など国語の授業や日常に活用できる教材を取り上げることで身に付けた力を日常に生かす工夫が見られます。

「光村図書」では「学習の進め方」において友達と書いたものについて話し合う活動を取り入れているので自分の課題に気付く工夫がみられました。

また、発達段階や個に応じた指導に対応するためについてですが、「東京書籍」では、筆順を間違えやすいも文字には全ての画数を数字で表したり、点画の接し方を点線で強調したりする工夫が見られました。

「光村図書」では、1年生に対し「ぴたっ」などの擬態語や、動物のイラストを用いたり、具体的に大きさや太さなどがわかりやすい見開きの頁を用いたりすることで、視覚に訴える工夫が多く見られました。

児童の使いやすさに対する配慮についてですが、「東京書籍」では専門家による配色デザイン、独自の教科書体の開発、インデックスによる学習事項の確認のしやすさなどに特色が見られます。

「光村図書」では複数の色を用いる際に児童が明確に識別できる色の組み合わせの配慮、読みやすくみやすいユニバーサルデザイン書体、強度が強く鉛筆での書き込みがしやすい紙の採用などの配慮に特色が見られます。特に書体につきましては、小学校低学年の指導で、きちんとした形を抑えるためにすぐれた形ではないかといった意見が見られました。

以上どちらの教科書も優れた細かな配慮・工夫が見られます。「東京書籍」の教科書サイズについてインデックスがついており、大きくて見やすいという意見と、机上で扱いにくいという両方の意見がありました。以上で書写に関する説明を終わります。

<会長>

ありがとうございました。調査部会の説明及び報告をいただきました。最初に、国語の報告に対して、ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

調査報告書にQRコードとありますが、どの教科書のどこにありますか。

<国語調査部長>

一例としてですが、光村図書の6年生の教科書「創造」の部分に掲載されています。実際にQRコードを読み取ってみますと、WEBサイトに繋がります。例えば、宮沢賢治についてですが、人物像、作品、出身地などの情報が掲載されています。

<委員>

各出版社あるということですか。

<国語調査部長>

はい。

<会長>

教材の特質に合わせてQRコードを設定してある箇所が、各出版社ごとに数箇所あるということですか。

<国語調査部長>

はい。数箇所ございました。各出版社共に新しいメディアの活用ということで、取り入れておりました。

<会長>

その他、ご質問等はいかがでしょうか。

<委員>

国語を得意としている教員と得意としていない教員がいます。あまり得意としていない教員が児童に教えるといった観点から見ると、「東京書籍」と「光村図書」どちらの方が使いやすいですか。

<国語調査部長>

そのことについて、調査部会の中でも議論になりました。「東京書籍」の場合は、目次から学習のすすめ方といった頁がついており、どのように学習を進めていくか、どんな力をつけていくのかが細かく書いて

あります。そういった面では、最初の頁は見通しがつきやすく、分かりやすいといった意見がありました。

<会長>

その他、ご質問等はいかがでしょうか。

<委員>

新学習指導要領のキーワードである主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫の視点から見た際に、工夫されている教科書はありましたか。

<国語調査部長>

「東京書籍」では、対話について単元の中で、学習した際にこのような話し合いをしてみようなど、意識して対話を配置されているといった意見がありました。

「光村図書」では、学習したことを他教科でこのように活用しようといった関連付けがされていて、その中で国語ではこのような話し合いを勉強していこうといった部分が位置付けてあったとの意見がありました。

<会長>

国語については、よろしいでしょうか。

引き続き、書写についてご質問等はいかがでしょうか。

<委員>

「東京書籍」の場合は、サイズが気になる部分になるのでしょうか。

<国語調査部長>

他の教科書と違い大きくて見やすいといった意見と、低学年等では机の上で使用するには少し大きいのではないか、といった意見がありました。

<会長>

その他、ご質問等はございますか。なければ調査部長さんへの質問は終わりにしたいと思います。

<委員>

ありません。

<会長>

それでは、国語、書写の調査について、大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 国語調査部長退室

<会長>

それでは、委員さんの中で協議をお願いいたします。先程の調査部長からの報告では、国語と書写について、「東京書籍」と「光村図書」の2社を挙げていただきました。この中から選定していくということでよろしいでしょうか。

<委員>

はい。

<会長>

それでは、この2社についてご意見等がございましたらお願いいたします。

<委員>

全体的に「東京書籍」と「光村図書」を見させていただいた中で、「東京書籍」の方が全体的にバランス良く扱いやすいといった印象を受けました。指導しやすさという観点からも「東京書籍」の方が良いといった印象を受けました。

<委員>

「東京書籍」と「光村図書」で同じ教材が扱われておりますが、様々な捉え方があるといった印象を受けました。

「光村図書」は、単元を教師からきちんと学べるようにされており、「東京書籍」は、人物像をしっかりと捉えていくようなまとめ方をされており、どちらの教科書もよくまとめられている印象を受けました。「東京書籍」の「振り返る」という点でしっかりと人物像を捉えさせていく過程は良い点だと思いました。

<会長>

その他に何かございますか。

<委員>

言語技術的な側面の育成についてどのように捉えているかを出版社ごとに見ていましたが、「学校図書」や「教育出版」の方がその部分について強調しているといった印象を受けました。ですが、トータルで見た際に、大きな差はないと感じました。「東京書籍」ですと、教材としてネット関連のものや、児童に触れてほしいようなテーマを題材にしている点が好ましいと思います。

<委員>

調査部会からの報告書を見ますと、「東京書籍」の方がかなり細かく調査をしているということで、調査委

員から様々な意見が出たと思います。

<会長>

よろしいでしょうか。委員からは、「東京書籍」に対する意見が多いように感じました。国語については、「東京書籍」の新しい国語を採択するということでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

続きまして、書写についてご意見がございましたら、お願いいたします。

<委員>

3年生用「光村図書」の教科書についてですが、どこに力を入れて書くのかも視覚的にも分かりやすく構成されていますし、サイズの的にも長い時間をかけてじっくり見るという場も多くはないと思いますので、視覚的な部分がきちんとしていることから多少小さいサイズでも問題はないと思いました。

<会長>

先程の調査部会からの調査報告にもありましたが、優れた字体や墨の濃淡のお手本が分かりやすいといった報告もありました。

<委員>

「東京書籍」の教科書ですが、3年生から書写の会といった掲載がありますが、先生が授業で生かすには難しいかなといった印象がありました。

<会長>

その他にご意見はございますか。

<委員>

「光村図書」の3年生の教科書ですが、視覚的にもどこに力を入れて書くのかなどが詳しく載っていますし、サイズも特に問題はないといった印象を持ちました。

<会長>

その他はいかがでしょう。様々なご意見を頂きましたが、サイズ面や内容的な意見では「光村図書」に対する意見が多く感じました。書写については、「光村図書」を採択ということでよろしいでしょうか。



<委員>

異議なし

<会長>

それでは、書写については「光村図書」の書写を採択いたします。採択理由書について検討をお願いします。

#### **採択理由書(案)配付**

<会長>

国語については、主体的で深い学びの実現などに強調して理由として挙げさせていただきました。書写については、委員から出た意見や、擬態語などを特色として記載をされております。理由書については、こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

#### **調査報告書, 教科用図書見本本配布 社会調査部長入室**

<社会調査部長>

社会科部会での調査内容について報告させていただきます。社会科部会では、3社の教科書について調査いたしました。その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料をもとに、各教科書の特徴について、簡潔に報告させていただきます。

1社目の新編新しい社会「東京書籍」について報告いたします。最も大きな特色は、5・6年生が2冊に分冊されていることです。分冊することで、児童の持ち運びに配慮しています。6年生は「歴史編」と「政治・国際編」に分けられおり、新学習指導要領に示された順序どおりではありません。

続きまして、新学習指導要領の目標達成という観点では、次のような特長があります。まず、調べ学習を進めるための資料や写真がとても充実していて、重要な事柄を取り上げて解説し、知識が定着するような配慮されています。

二つ目に、学習の進め方が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4段階に構成され、学び方を身に付け、主体的に学習できるようになっています。

三つ目に、学習を発展させる段階で、自分ができることを考えたり、選択・判断したりすることができるよ

うに、社会参画を意識した構成になっています。

四つ目に、児童が見通しをもって学び、振り返ることがしやすい構成になっている。

続きまして、内容の取扱いでは、次のような特長があります。

随所に話し合いや討論の場面を提示して、対話的な学びへの配慮があること。また、発展的な学習のためにデジタルコンテンツを用意していることが挙げられます。

続きまして、構成・表記・体裁では、次のような特長があります。

問題解決型の学習段階の構成がなされていること、他教科との関連が図りやすい工夫があること、児童に人気のアニメキャラクターを使っていること、5・6年生が分冊されていることになります。以上が「東京書籍」の「新編 新しい社会」の調査報告となります。

2社目の「小学社会」「教育出版」最も大きな特色は、5・6年生が1冊にまとめられていることです。1冊にすることで、児童が1年間の見通しをもって学習することに配慮しています。

また、6年生は学習指導要領の順番通りに「政治」「歴史」「国際」の順に記載されています。

新学習指導要領の目標達成という観点では、次のような特長があります。

一つ目に、問題解決への意欲を高める問いや「学びのてびき」が充実していて、技能を高める配慮がなされていることです。

二つ目に、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の4つの学習過程を積み重ねることで、学び方を身に付け、主体的に学習できるようになっていることです。

三つ目に、毎時間の学習問題を明示するとともに、次の時間の学習につなげる問いを用意することで、児童の学習の連続性を意識しています。

四つ目に、問い続けることを意識した構成にすることで、児童の意欲を高める配慮をしています。

続きまして、内容の取扱いでは、次のような特長があります。

一つ目に、児童が対話的な学習を行う際の進め方や方法を示し、対話的で深い学びへの配慮がされています。

二つ目に、デジタルコンテンツを用意していることで、発展的な学習につなげやすくなっています。

続きまして、構成・表記・体裁では、次のような特長があります。

一つ目に、問題解決型の学習段階の構成がなされていること。

二つ目に、児童に親しみやすいキャラクターや吹き出しを使っていること。

三つ目に、5・6年生が1冊になっており、6年生は学習指導要領に合わせて「政治」「歴史」「国際」の順に記載されていることになります。以上が「小学社会」「教育出版」についての調査報告になります。

続きまして、3社目の「小学社会」「日本文教出版」について調査報告をいたします。

最も大きな特色は、5・6年生が1冊にまとめられていることです。1冊にすることで、児童が1年間の見通しをもって学習することに配慮しています。6年生につきましては、学習指導要領の順番通りに「政治」「歴史」「国際」の順に記載されています。

新学習指導要領の目標達成という観点では、次のような特長があります。

一つ目に、調べ学習を進める方法を「学び方・調べ方コーナー」で示している他、発表やノートのまとめ方・話し合いの例などを掲載し、技能が定着するよう配慮されている。

二つ目に、単元を貫く学習問題と毎時間の学習問題が明示され、複数の意見を紹介することで、思考力が深められる構成になっている。

三つ目に、学習サイクルを巻頭で示し、児童が見通しをもって主体的に学習できるよう配慮されている。

四つ目に、各単元末には「学びをいかそう」のコーナーがあり、児童が社会と関わっていく力をつけるよう配慮している。

続きまして、内容の取扱いでは、次のような特長があります。

一つ目に、「見方・考え方コーナー」で、社会的な見方・考え方の視点などを示していること。

二つ目に、発展的な学習につなげるためのデジタルコンテンツを用意していること。

続きまして、構成・表記・体裁では、次のような特長があります。

一つ目に、問題解決型の学習段階の構成がなされていること。

二つ目に、児童が親しみやすいキャラクターを使っていること。

三つ目に、5・6年生が1冊になっていることとなります。以上の3社の教科書を調査し、調査部会としては、新編 新しい社会「東京書籍」が児童の「主体的・対話的で深い学び」を進めるために最も適しているのではないかという意見にまとまりましたことを、ご報告いたします。なお、次点として小学社会「教育出版」が挙げられました。調査報告は以上となります。

<会長>

ありがとうございました。

委員の皆様からなにかご質問などはございますか。

<委員>

5・6年生の分冊について、現場の教諭の感覚として、どのような意見がありますか。

<社会調査部長>

調査員の意見としては、現在使用している教科書も分冊されていますので、児童の持ち運びにはいいのではないかといった意見がありました。6年生については、順番が変わってきますが持ち運びの観点からは肯定の意見がありました。

<会長>

その他ご質問などはありますか。

<委員>

デジタルコンテンツが用意されているとのことですが、具体的にどの部分になりますか。

<社会調査部長>

一例ですが、「東京書籍」の歴史編では、カメラで読み取ることで、WEB上の詳しい頁にアクセスできるようになっておりますが、どの出版社も取り入れています。

<会長>

よろしいでしょうか。続いて、地図についての調査報告をお願いします。

<社会調査部長>

続きまして、地図帳について報告いたします。地図帳については、新編新しい社会科地図「東京書籍」と楽しく学ぶ小学生の地図帳「帝国書院」の2社について調査しました。

1社目の新編新しい社会科地図「東京書籍」の特色について報告します。

最も大きな特色は、児童にとって親しみやすいということです。新学習指導要領の目標達成という観点では、次のような特長があります。

1つ目に、キャラクターや写真を多く使って、地図の使い方や緯度・経度、地球儀の使い方の理解がしやすくなる配慮がなされている。

2つ目に、歴史地図を充実させることで、歴史学習との関連を図り、多角的に考える力が深められる構成になっている。

続きまして、内容の取扱いでは、次のような特長があります。

1つ目に、主題図のテーマとねらいを明確にして、児童の問題意識を高める工夫がされています。

2つ目に、デジタルコンテンツを用意しています。

3つ目に、教科書との関連を図っており、補足的・発展的な資料を掲載していることが挙げられます。

また、構成・表記・体裁では、次のような特長があります。

1つ目に、統計資料が充実しています。

2つ目に、世界の国名には全て英語表記を併記していて、外国語学習との関連を図っています。

3つ目に、児童が親しみやすい多彩なキャラクターと、ユニバーサルデザインを意識したフォントや色彩を使い見やすくなっています。

4つ目に、多様な写真やイラストマップで、児童の興味・関心を高める配慮があり、導入期の児童に親しみやすいと思われます。以上が、新編新しい社会科地図「東京書籍」の報告になります。

続きまして、2社目の楽しく学ぶ小学生の地図帳「帝国書院」の特色を申し上げます。

最も大きな特色は、地図の情報量が大変充実していますが、一方で軽量であるということです。

新学習指導要領の目標達成という観点では、次のような特長があります。

1つ目に、巻頭の22頁で「地図のやくそく」「地図の使い方」とイラストを生かした日本地図を記載していて、導入期の児童に楽しく基礎・基本が身に付けられるような構成になっています。

2つ目に、世界地図の頁に世界の子供たちを紹介するコーナーを設け、多角的に考えられるよう配慮されています。

3つ目に、児童が主体的に考えるテーマとして、特に防災についての記載を充実しています。

内容の取扱いでは、次のような特長があります。

1つ目に、「地図マスターへの道」コーナーを設け、深い学びを促す工夫がなされています。

2つ目に、デジタルコンテンツを用意しています。

また、構成、表記、体裁では、次のような特長があります。

世界地図は、各州の大縮尺の地図の後ろに、アジア、ヨーロッパ、北アメリカは詳細な地図を掲載して、学習の深化への配慮がなされている。

2つ目ですが、世界の主な国名には英語表記を併記していて、外国語学習との関連を図っています。

3つ目ですが、児童が親しみやすいキャラクターと、ユニバーサルデザインを意識したフォントや色彩を使っています。

最後に体裁についてですが、120頁、A4版という大きさ・厚さながら、軽量化が実現されています。以上が、楽しく学ぶ小学生の地図帳「帝国書院」の報告になります。2社の教科書を調査し、調査部会としては、楽しく学ぶ小学生の地図帳「帝国書院」が児童の学力を高めるために最も適しているとの意見にまとまりましたことを、ご報告いたします。なお、次点として新編新しい社会科地図「東京書籍」が挙げられました。

<会長>

ありがとうございました。ご質問等がありましたらお願いします。

短い調査期間の中、ありがとうございました。

## 社会調査部長退室

<会長>

ただいま、社会と地図について調査報告をいただきました。調査部会で多く意見のあった2社についての特色を詳しく報告をしていただきましたが、社会から協議を進めていきたいと思います。ご意見などがありましたら、お願いします。

<委員>

「東京書籍」が充実している印象をもっています。先程も社会参画を意識した構成になっているといった報告がありましたが、学んだこと、調べたこと、分かったことを基に、その商品をPRすることまでを考えるように導かれています。一歩進んで創造力や発信力の育成などを含めて現実の社会生活につなげようとする配慮がされている構成が好ましいと思いました。

<会長>

その他のご意見はありますか。

<委員>

社会ですので、写真や図表が多い構成になっていますが、「東京書籍」の方が明るくてきれいな印象を受けました。分冊について様々なご意見がありましたが、6年生の政治国際編に関してしっかりとまとめられていることから、分冊も悪くはないと感じました。

<会長>

その他はよろしいでしょうか。

社会については、「東京書籍」の新しい社会という意見が多くありました。こちらを採択するということでよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

ありがとうございます。それでは、社会については、「東京書籍」の新しい社会を採択とします。

続きまして、地図帳についてご意見をお願いします。

<委員>

「帝国書院」の教科書は、非常にシンプルで見やすく分かりやすい印象を受けました。全体的にみて大きい字で分かりやすいのは「帝国書院」の教科書だと感じました。

<会長>

各社ともに色彩についてインクの種類も含めてかなり工夫をしているように思います。調査報告の内容や委員のご意見を伺うと「帝国書院」の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」についての意見が多く感じました。こちらを採択するということでよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

ありがとうございます。採択理由書の配布をお願いします。

**採択理由書(案)配付**

<会長>

社会については、問題解決型の学習段階の構成、社会参画を意識した構成、対話的で深い学びの実

現のための工夫などの特色が記載されております。

地図帳については、先程委員からご意見があった内容も記載されております。こちらの採択理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

**調査報告書、教科用図書見本本配布  
理科調査部長入室**

<会長>

それでは、理科部会の報告をお願いします。

<理科調査部長>

理科の調査部会では、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「信州教育出版社」、「啓林館」6社について詳細に比較、検討をいたしました。

各出版社とも、それぞれに工夫を凝らし、特色のある内容となっており、一長一短がございました。比較・検討の結果は調査報告書の通りですが、その中から主に優れている点をご説明いたします。

初めに、第1項目の1にあります自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるために、どのような配慮がされているかについては、基本的な知識の定着を図るための工夫という視点で比較・検討しました。各社とも基本的な知識に関しては、学習問題に対する結論の形で明示されておりました。その中で「大日本図書」は、各単元において、学習問題に対する結論と説明を区別して明示し、児童が学習問題と正対した結論を元に基礎的・基本的な知識の定着が図れるよう配慮されている点、「東京書籍」は、各単元の「まとめ」を箇条書きにし、簡潔で分かりやすい表現で示され、児童に対し基礎的な知識の定着がなされるよう配慮されている点を評価いたしました。

続きまして、観察・実験時の教科書の見やすさや技能習得のための工夫という視点では、巻末に基本的な器具の使い方をまとめている教科書が多い中、「大日本図書」は学習場面の掲載に加え、複数回使用するもの、下学年で使用したものについて巻末にまとめて掲載している点が、児童が繰り返し参照する際に役に立つと思われます。

また、「教育出版」が、単元内の解説のほか、目次に一覧を掲載している点も同様に、児童が繰り返し参照する際に役に立つと思われます。

第1項目の2の観察、実験などを行い、問題解決の能力を養うために、どのように配慮されているかについては、各教科書とも問題解決の過程を大切にしており、その流れをわかりやすくするために表示の工

夫や配列の工夫といった点で配慮された構成となっていました。

問題解決の過程をどのように捉えるかという点で、各教科書に相違が表れていました。

まず、共通していたのは、導入時の『問題を見つける』活動をどの教科書も丁寧に扱っている点です。過去の経験や新たな疑問を友達と共に出し合いながら問題を見つけていく流れを大切にしています。児童や教師のイラストとともに、吹き出しにはつぶやきや対話の様子が示され、話し合いながら学習を進めていけるように工夫がされています。そして、「大日本図書」と「教育出版」では、『観察・実験』の後の活動を『伝えよう』や『表現しよう』と位置付け、結果をまとめることで区切らずに、それを人に分かりやすく伝える活動(表現力)までを問題解決の過程としています。多くの教科書が巻頭や巻末に記録カードやノートの書き方をまとめて例示していますが、「大日本図書」では、それぞれの単元の中にもノートの記録例や発表方法等について写真や表が多数掲載され、実際の学習活動の参考になるよう配慮されています。

第1項目の3の自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養うために、どのように配慮されているかについては、単元導入における工夫という視点から検討いたしました。

その中で「東京書籍」が、単元導入を2から3頁で構成し、自然事象を取り上げた写真や漫画を掲載することで自由な発想や疑問を引き出し、主体的な学びがはじまれるように工夫がなされていた点、「大日本図書」が、単元当初に、同場面でありながら異なる結果の2つの写真を並べて掲載したり吹き出しで疑問を投げかけたりすることで「どうしてかな？ふしぎだな？」と興味・関心を高めて学習に入れるように工夫されている点を評価いたしました。

第2項目の1の理科における見方・考え方を働かせるために、どのような工夫がみられるかについては、各教科書とも、巻頭や本編の問題解決の過程、巻末などの各所で、理科における見方・考え方について働かせるための工夫がされていました。特に「東京書籍」、「学校図書」、「教育出版」は巻頭に、見方・考え方が明示されており、意識して学習を始められる構成となっていました。

第2項目の2の主体的・対話的で深い学びの実現のため、どのような工夫がみられるかについては、問題解決の過程が丁寧で、かつ児童の疑問や気づきを基に問題を見いだしたり、対話を通して問題解決に取り組んだりできるよう配慮されているかについて比較・検討いたしました。各教科書とも、問題解決の流れを明示し、見通しをもって取り組めるように構成されておりました。

また、問題解決の過程で、児童の気づきを大切に、対話を通して主体的に学ぶ姿を示していました。

「東京書籍」では、学年に応じて重点化されている力の育成を図る場面で、対話が配置されていました。

「大日本図書」では、児童の発言や話し合いの場面が多く用いられており、「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決に取り組めるように方向性を示すという配慮がみられました。

第2項目の3の見通しをもって観察・実験を行うために、どのような工夫が見られるかについては、各教科書とも巻頭に問題解決の過程を掲載し、本編では写真やイラストを入れて観察・実験の手順が分かりやすく提示されていました。その中で、問題解決の過程で「問題」と「結論」の整合性があり、児童が目的をもって観察実験を行い、その学習内容を理解しやすいつくりになっているのは、「大日本図書」であると感じました。

第3項目の1の単元の構成や教材の配列には、どのような特色があるかについては、「東京書籍」、「大日本図書」、「教育出版」は実験器具や理科室の使用が重ならないように各学年の単元構成が配慮され



ています。

また、「東京書籍」と「大日本図書」は、6学年の冒頭に生活と環境との関連を学ぶ小単元を配置しております。

第3項目の2の単元や教材の分量には、どのような特色があるかについては、6社すべての教科書で、余裕をもって指導できる分量の指導計画が作成されています。「東京書籍」、「大日本図書」、「啓林館」については、2学期制、3学期制のどちらにも対応できるように指導計画が作成されています。

第4項目の1の用語や記号、レイアウト等について、どのような工夫が見られるかについては、各教科書ともさまざまな記号をつけて視覚的に捉えやすく工夫されています。特に「大日本図書」は「理科と仕事マーク」「伝統」「英語」「防災」「ESD」などのマークを設け、理科とキャリア教育、伝統文化、国際理解、防災、持続可能な社会の関連を特に意識できるようになっていました。

第4項目の2の写真や挿絵、図表等について、どのような工夫が見られるかについては、各教科書とも大きな写真やイラスト等を用いており、大きな差はありませんでした。ただし、「大日本図書」は、問題解決の過程の観察・実験の場面に児童が活動している写真を多数使用しており、児童が親近感をもちやすいと感じました。

第5項目の装丁や使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるかについては、各教科書とも、印刷、製本において、再生紙や植物油インキを使用し、児童のアレルギーや環境に配慮するとともに、あじろ綴じにより紙面を開きやすく、児童が扱いやすいように配慮されていました。各教科書とも児童への身体的負担を考え、用紙の軽量化に取り組み、重量の軽減に取り組んでいました。

以上のような検討結果から、当検討部会では、「東京書籍」の新しい理科と「大日本図書」のたのしい理科の2社の評価が高かったことをご報告いたします。

<会長>

ありがとうございました。ご意見などがありましたら、お願いします。

<委員>

デジタルコンテンツについては、どのように掲載されていますか。

<理科調査部長>

各出版社ともに、QRコードなどを用いて単元の中で活用できるように配置されています。

<委員>

プログラミング学習については、どのように掲載されていますか。

<理科調査部長>

6年生の中で、電気の流れの学習の中で扱っています。

特に巻末資料として優れていると感じたのが「啓林館」です。巻末にシールがついており、再剥離しなが

ら思考を深めていく点で使いやすいと感じました。

<会長>

その他はよろしいでしょうか。短い期間の中、調査報告ありがとうございました。

### **理科調査部長退室**

<会長>

それでは、委員さんの中で協議をお願いいたします。

<委員>

小学校の教諭は、理科の専門でない方もいる中で、どういった形で教材を提供したり、どういった実験や観察などの学びの課程が分かるのが「大日本図書」だと感じました。「大日本図書」の見やすさ、使いやすさ、資料の質の高さなどが評価できる点だと思います。

<会長>

ありがとうございます。その他についてはいかがでしょうか。

<委員>

実験の予想の部分が2社で違っています。問題点をどのように予想させるかについてですが、「大日本図書」は結論に導くような予想が記載してあります。その点をどのように受け取るかによってですが、小学生のため、ある程度の導きが必要なのではと思いました。そういった点で使いやすいのは「大日本図書」だと思います。

<会長>

ありがとうございました。他についてはいかがでしょうか。

調査委員からの報告、委員からのご意見では「大日本図書」の意見が多かったように感じました。理科については「大日本図書」の教科書を採択するということでよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

それでは、理科については「大日本図書」の教科書を採択いたします。採択理由書について検討をお願いします。

## 採択理由書(案)配付

<会長>

問題解決過程の重視, 実験器具の扱い方, 他教科との関連, 巻末の資料などを特色としています。  
こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

## 調査報告書, 教科用図書見本本配布 家庭調査部長入室

<会長>

家庭部会について調査報告をお願いいたします。

<家庭調査部長>

「東京書籍」についてですが, 1の項目, 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について3つの観点の特色についてご報告いたします。

まず, 家族や家庭, 衣食住, 消費や環境などについて, 日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに, それらに係る技能を身に付けるために, どのように配慮されているかについては, 「めあて」に応じた「ふり返ろう」があり, 知識・技能が定着しやすいようになっています。

イラストや写真説明資料が大きく数も多く, 支援が必要な児童に知識や技能をもたせる上での配慮があります。「いつも確かめよう」のコーナーで学習の手順を示し, 知識や技能を身に付けられるようになっています。

次に, 日常生活の中から問題を設定し, 様々な解決方法を考え, 実践を評価・改善し, 考えたことを表現するなど, 課題を解決する力を養うために, どのように配慮されているかについてですが, 第3小題材「ステップ3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」, 「活動深めよう」では, 学習内容を生活に結びつけ, 学習の中で他者との交流を図り, 日常生活の問題を見だし, 解決できるようにしています。

また, 生活の課題と実践を「生活を変えるチャンス!」として設定し, 学んできたことを生かし, 解決していく内容になっています。

そして, 家庭生活を大切にする心情を育み, 家族や地域の人々との関わりを考え, 家族の一員として, 生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うために, どのように配慮されているかについては, すべての大題材で家族や家庭生活と結びつくように配慮しています。学習した知識や技能をもとに, 生活の中

で生かす視点を入れたり、家族のための製作を示唆する内容を示したりしています。大題材「あなたは、家庭や地域の宝物」では、家庭や地域での自分の役割を自覚し、自分の仕事ができるよう配慮しています。

2の項目・内容の程度及び取り扱いについての3つの観点におけるの特色です。

まず、生活の営みに係る見方・考え方をはたらかせるために、どのような工夫が見られるかについてですが、各題材の初めの家庭科の窓には、生活の営みに係る見方・考え方の4視点のうち、重点となる観点を示しており、学習が進めやすくなっています。

次に、主体的・対話的な深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるかについては、題材の中の学習が、3ステップで示され学習の進め方が分かりやすくなっています。

各題材とも「考えよう」「深めよう」「交流しよう」等のコーナーにおいて、学び合いのヒントとなる考えがふき出し等で示されています。

そして、実践的・体験的な活動にはどのような工夫が見られるかについてですが、「生活を変えるチャンス！」コーナーでは、学んだことや身に付いた力を生かせるよう「実践の進め方」に沿って、実践例を紹介しており、普段の生活の中でも、課題をもって実践し評価・改善していく態度を育てることにつながると思われます。

また、インターネットを活用して、基礎技能動画を見ることができ、実践的・体験的に楽しく学びながら生活の自立を目指すことができます。さらに、実寸大写真でイメージがつかみやすく、不安を解消し、安全に授業を展開することができます。

3の項目・構成・配列・分量についての2つの観点におけるの特色ですが、大題材の配列を組み合わせることで、地域や学校の実態に応じた指導ができるようにしています。

また、活動例や実習例を豊富に提示することで、地域や学校の実態に応じて、選択して指導できるように配慮されています。学習の頁では主な解説・写真を掲載し、巻末の大きな写真や図でより詳しく説明を補足しています。

4の項目・表記・表現についての2つの観点におけるの特色ですが、大切なことを示す文字が大きく見やすいです。A4判を用い、一つの実習を見開きで概観することができるため、分かりやすいレイアウトになっています。専門的な用語については、脚注などで児童が理解しやすい簡潔な表現で解説を補足しています。

また、4人のキャラクターがふき出しで会話を展開しており、気付きや理解の手助けになっています。

5の項目・体裁・使用上の便宜については、A4判のためスペースがゆったりと配置してあり、見やすいです。カラーバリアフリーや字体などユニバーサルデザインに配慮しています。

続きまして、わたしたちの家庭科「開隆堂」の主な特色について5項目においてご報告いたします。

1の項目・学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について3つの観点におけるの特色について報告いたします。

まず、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるために、どのように配慮されているかについては、簡単なものから繰り返し積み重ねていくことで基礎的な理解を図るとともに、技能を身に付けられる内容になっています。「ゆ

でる料理」では、ガスコンロで湯をわかす、青菜はふつとうした湯で、いもは水からゆでる、ゆで野菜のサラダをつくる、自身の生活に生かす調理へといった段階的に配置されています。

次に、日常生活の中からといった内容については、各題材のとびらのイラストや写真は、児童が興味・関心をもち、さまざまなことに気付いたり、課題を見つけたりできるようになっています。

また、グループや学級で対話することによって自分の気付きをもとに新たな視点を得たり、深い学びへつながったりできるようになっています。

また、習得した知識及び技能などを実生活で活用するための「レッツトライ生活の課題と実践」の頁を設けています。

そして、幼児または低学年や高齢者など異なる世代の人たちと関わり、地域の中で共に生活する視点で題材が構成されています。

2の項目・内容の程度及び取り扱いについての3つの観点におけるの特色です。

まず、生活の営みに係る見方・考え方をはたらかせるために、どのような工夫が見られるかについては、生活の営みに係る見方・考え方の4視点を4つ葉のクローバーで表現しているところが親しみやすいです。

また、それぞれの視点をトランプの4つのマークで分類しています。クローバーマークで生活の見方考え方を4つの視点で見ていくことを全ての題材で統一しており、取り組み方の道しるべになっています。

次に、主体的・対話的な深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるかについては、「1見つける・気づく 2わかる・できる 3生かす・深める」の3つのステップで題材を構成しています。例といたしましては、「1なぜぬうのだろう 2どのような用具や方法でぬうのだろう 3手ぬいを生活に生かそう」です。特に、導入の「1見つける 気づく」では、写真やイラスト、ふき出しが児童の気づきを手助けしており、児童のつぶやきも拾いやすくしています。

そして、実践的・体験的な活動にはどのような工夫が見られるかについては、各題材の終末に「ふり返ろう」「生活に生かそう」コーナーが設定されており、身に付けた力を生活の中で実践しようとする態度を育てやすいです。

また、考えのもとになる科学的根拠が視覚的に分かりやすく示されており、生活の中で実践していこうとする意欲を高めるための工夫があります。

3の項目・構成・配列・分量についての2つの観点におけるの特色ですが、5年では「生活を見つめ、できることを増やしてこう」、6年では「工夫して生活に生かそう」のテーマで題材構成・配列がなされています。

また、題材が細かく区切られているので地域や学校の事情等によって順序の組み換えがしやすく工夫されています。さらに、基礎的なものからスモールステップで学習が進むよう題材が多く配列されています。

4の項目・表記・表現についての2つの観点におけるの特色ですが、調理や製作の手順の掲載については見開き2頁を大きく使っています。一目で作業の手順が理解しやすく児童が主体的に学べるようになっています。

また、掲載されているQRコードを読み取るとタブレット等で、豊富な動画資料を見ることができ、技能の

習得に有効です。

そして、課題を解決するための手がかりや本文内容の理解を助ける資料が、効果的な表現や分量、大きさと示されています。実習は写真とイラストで分かりやすく例示されており、調理の写真は実習する児童の目線から見たアングルを掲載しているので、実際の調理がイメージしやすくなっています。

5の項目・体裁・使用上の便宜については、ユニバーサルデザインにも特化しており、文字の大きさ、文字数、色使いなどがちょうどよく、特別支援教育的な視点から見ると単語や節が行をまたがないように改行位置を工夫しており、文章や語彙の意味が一目で理解できるよう読みやすい構成になっています。

また、活動の際に活用しやすいよう、コンパクトな大きさです。

<会長>

ありがとうございました。

それでは、調査部会の報告について、ご質問等がありましたらお願いします。

<委員>

同じ調査項目で、2社を比較して特長的なことはありますか。

<家庭調査部長>

「開隆堂」の教科書は、5年生で11題材、6年生で9題材あります。「東京書籍」の教科書は、5年生が8題材、6年生で7題材あり、大きくまとめているのが「東京書籍」の教科書になります。題材数が大きく違うことが分かりました。細かく分かれているのが、「開隆堂」で大きくまとめているのが「東京書籍」となります。

また、調理の始まりについてですが、どちらも3ステップになっています。大きく違う点としてですが、1ステップでなぜ調理をするのかという点です。児童に投げかけたときに、なぜという点は非常に大切になります。

<会長>

その他にご質問はありますか。

<委員>

「開隆堂」については、QRコードが多々ありますが、実際に見てどのような印象がありますか。

<家庭調査部長>

身近な友達が身支度の仕方、手の洗い方などを見ることができます。教師側が教材研究もままならない中、若い教諭にとってはプロジェクターを用いて大画面で表示することもできます。内容も充実して使いやすいといった意見がでていました。

<会長>

その他についてはいかがですか。

<委員>

新学習指導要領で示されている主体的で対話的な深い学びとありますが、対話的という点がキーワードになると思います。そういった視点で見た際、調理をする上で児童が対話的な形で学んでいけるような教科書はどちらになると思いますか。

<家庭調査部長>

調理の頁ですが、同じ世代が会話をしている頁がある「開隆堂」の方がより興味をもつと思います。

<会長>

その他はありますでしょうか。

それでは、ありがとうございました。

#### **家庭調査部長退室**

<会長>

出版が2社ということで詳しく報告をしていただきました。

それでは、委員さんの中で協議をお願いいたします。

<委員>

デジタルコンテンツについてですが、報告にあったように「開隆堂」は右上にあり使いやすい印象があります。

<会長>

調査部会の報告としても、「開隆堂」の教科書について詳しく調査報告をしていただきましたし、委員の意見としても「開隆堂」の意見が多いように感じました。「開隆堂」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

ありがとうございました。家庭については、「開隆堂」の教科書を採択いたします。採択理由書について検討をお願いします。

## 採択理由書(案)配付

<会長>

ご意見などがありますでしょうか。

<委員>

題材の数についてですが、「開隆堂」の方が細かくて授業の配列としても良いといった意見がありましたので、その文言の記載を入れても良いと思います。

<会長>

事務局にて、それらの文言も追加したいと思います。事務局に一任していただきまして、その他の部分はこちらの採択理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、午前の部が終了となります。午後は13時より再開いたしますので、よろしく願いいたします。

## 調査報告書、教科用図書見本本配布

### 生活調査部長入室

それでは、午後の部を再開いたします。生活部会の調査報告をお願いいたします。

<生活調査部長>

それでは、生活部会の調査報告をさせていただきます。

全体としてですが、どの教科書会社の教科書も新学習指導要領の目標と内容を踏まえていると共に、児童の発達段階を考慮したつくりをしている。

どの社の教科書も小学校のスタートブックが掲載され、保幼との接続を意識しております。

初めに「東京書籍」についてですが、A4判の大判教科書で、文字や写真を見やすく、効果的に配置しています。活動のめあての文字が大きく太字で目立つので、児童がどのような活動をするか意識しやすくなっています。

また、上巻の章末資料の後には、取り外しができる実物大の植物を載せた「ポケットずかん」を設け、野外での活動の多い生活科学習に役立つ工夫があります。

さらに、頁の左側をカットして、花の生育の様子を一目で比較できる工夫もあります。



同じ場所を四季ごとにイラストでわかりやすく示すことで、四季の違いを意識しながら学習を進めることができます。

イラスト児童の吹き出しが精選されており、それぞれ「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の具体的姿を表しています。

続きまして「大日本図書」ですが、AB判ではありますが、活動のめあての文字を大きくしたり、活動の内容を風船マーク内に示したりするなど、児童の活動への意欲と見通しを付けられるように工夫されています。

見開き右上に、「せいかつことば」「きらきらことば」コーナーを設け、正しい言葉使いや語彙力の強化に関する配慮がされています。

四季を感じることができる工夫として、モノクロ頁を設定し、次の頁のカラー頁と比較することで、児童の感性を刺激する工夫があります。

植物の栽培に関しては、花以外にサツマイモや大豆など食物として身近なものも取り上げていると共に、生育の時期を考慮し、春・夏・秋に分けて掲載し、収穫まで扱っています。

続きまして、「学校図書」はAB変形判で、AB判よりやや大きく、活動のめあての文字を大きく目立つようにしています。

同じ4人の児童の会話やつぶやきで、内容が進められ、児童同士のかかわりや成長が伝わりやすくなるように工夫されています。

植物の栽培に関して、種まきから新しい種の収穫まで、22頁と詳しく掲載している特徴があります。

続きまして、「教育出版」についてですが、AB判で、絵本ではじまる導入で、これからの学習に期待を持たせるとともに、目次で学習の時期を示して、見通しをもたせやすくしています。

サイコロのアイコンを使用し、アイコン内に「気付く」「考える・伝える」「自分でできる」「挑戦する」「自信を持つ」など、小単元のねらいが提示されています。

続きまして、「信州教育」についてですが、AB判右開きで、信州の特色ある風景を「いつもの場所」として、イラストで季節ごとに折り込み頁で掲載しています。

続きまして、「光村図書」についてですが、AB判で、自分の学びを振り返るためのシールや折り込みの頁があるのが特徴です。振り返りシールは、単元ごとの振り返りに使用すると共に、脱着ができるのりを使用しているので、学年末の「ジャンプ大集合」で、1年間の学びを振り返ることができます。

単元は、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階構成で、流れをつかみやすくなっています。

また、児童の言葉やつぶやきを表した吹き出しの文字は、手書き風文字を使用し、読みやすい雰囲気となっていると共に、筆順や画数にも配慮している。

続きまして、「啓林館」についてですが、AB判で、単元の流れを「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成し、それぞれを黄緑・ピンク・水色を基調とした頁に色分けしている。見開き頁右下に「めくりことば」を設けて、次時へのつながりを意識できる工夫があります。

最後に「日本文教出版」についてですが、AB判で、見開き左頁下に、育成すべき資質能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」に基づいた「学習のめあて」をそれぞれ「本」「電球」「ハート」のアイコンで表示し、どの力を育成しているのかを意識して進められます。

また、植物の栽培に関しては、児童が教科書の数頁をやまおり加工することで、植物の成長過程が連続的に一目でわかるように工夫しています。

<会長>

ありがとうございました。8社についての調査報告をしていただきました。  
ご質問などありましたらお願いします。

<委員>

「大日本図書」の教科書では、見比べができる頁がありますが、大人の感覚と実際授業をしている教諭の感覚としてはどうですか。

<生活調査部長>

見比べることができ、イメージをつかめる印象はあります。ですが、それが児童にあっているかといった意見までは調査部会の中では協議できませんでした。

<会長>

その他についてはいかがでしょうか。

<委員>

「大日本図書」の113頁については、どのように使用しますか。

<生活調査部長>

付属しているフィルムを使用して、夜の町を探検しているような作りになっています。

<委員>

こういった工夫は「大日本図書」のみになりますか。

<生活調査部長>

はい。「大日本図書」のみになります。

<委員>

調査部会としては、どのような意見がありますか。

<生活調査部長>

児童は、興味を持って喜んで取り組むと思います。会話としてもよくまとめられており、学びのプロセスについても児童や初めて教える教師にも参考になります。

また,せいかつことばなどの細かな配慮がされており,取り上げて説明ができます。

<会長>

その他についてはいかがでしょうか。

<委員>

「大日本」の下巻の31頁についてですが,これは現場の先生はどのような判断でしょうか。

<生活調査部長>

見比べると季節のイメージが捉えやすいといった意見がありました。

<委員>

「東京書籍」の教科書のサイズについてご意見はありましたか。

<生活調査部長>

調査部会では,多少大きいかなといった意見がありました。

<会長>

その他についてはいかがでしょうか。

それでは,調査報告ありがとうございました。

### 生活調査部長退室

<会長>

8社の中から2社についてより詳しく報告をしていただきました。それでは,委員の中で協議をお願いします。

<委員>

「東京書籍」の教科書に良い印象をもちました。表現力育成に重点を置いた構成や人との関わりなどにも重点を置いております。

また,車椅子や多目的トイレなど多様性の配慮を感じました。遊んだり活動したりする時の留意事項なども絵を用いながら丁寧に説明がされているところもありがたい点だと思います。

<会長>

ありがとうございます。その他についてはいかがですか。委員からは,「東京書籍」の教科書についてのご意見がありました。「東京書籍」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

#### **採択理由書(案)配付**

<会長>

調査部会からの報告にもありましたように、活動のめあての文字や使いやすさなども理由書の中に含まれております。また、季節の変化と生活を関連付けた内容や発展的に挑戦することも含まれておりますので、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

#### **調査報告書, 教科用図書見本本配布**

##### **外国語調査部長入室**

<会長>

それでは、外国語について調査報告をよろしくをお願いします。

<外国語調査部長>

外国語部会の調査報告をいたします。今回の教科書調査に当たっては、7社の教科書を分析いたしましたが、様々な分野で注目されている外国語とあってどこの出版社も工夫されておりました。その中でも調査部会の中で、話題になった教科書を中心に報告をさせていただきます。

調査項目は5つ挙げられていますが、最もその差の大きかった部分、調査項目1「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択」を申し上げます。5年生の教科書、NEW HORIZON Elementary と Junior Sunshine をご覧ください。

最初に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」に関して申し上げます。「自分の好きな物や好きなことを含めて自己紹介をする」という目標で、最後に「名刺交換をする」という同じ学習活動が設定されています。両社とも、たくさんの音声を聞いて英語に慣れ親しみ、重要表現が自然と身に付くように配慮されているという点では共通しております。

しかしながら、名刺交換まで教師が提示する9つの単発的な活動を展開する Junior Sunshine に対して、NEW HORIZON Elementary は、中心となる学習活動数は5と少ないながらも、重要表現を用いたやり取りの中で、一つ一つの気付きを確認し、「聞いて気付いたら自分で表現してみる」を繰り返しているという特徴があります。

また、名刺交換の場面では、既習のどんな表現を活用したらよいのかを確認したり、やり取りの場面でのポイントが記されておりますので、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力の育成を図っておりますし、新学習指導要領では、慣れ親しみや気付きが大きなポイントになっております。

次に「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための配慮」です。NEW HORIZON Elementary では、冒頭の4頁で、「なぜ英語を学ぶのか」「授業の中での英語の学び方」が示されています。単元の始めに、Our Goalとして目標を提示してあるのも特徴です。

年3回の Check Your Steps では、そこまでの学習を振り返り、既習表現を活用したスピーチで学びを確かめられるように設定されています。

Junior Sunshine は、教科書冒頭に CAN-DO マップが、単元の終わりに「ふりかえりをしよう」が示されているのが特徴です。児童が「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」を自ら理解し、必然性をもって主体的に表現することができるように工夫されています。

また、1年に2回の Project 活動で、学んだことを確かめたり、既習の表現を主体的に活用したりすることができるように配慮されています。

両社とも、児童が主体的に学びに向かっていく、そして将来にわたって活用できる力を付けるための工夫がされております。

ただ、Junior Sunshine は決められた活動、決められた表現の中での学習という感があり、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるという視点では、若干弱いように感じます。

続いて調査項目2「内容の程度及び取扱いに」を申し上げます。

NEW HORIZON Elementary, Junior Sunshine とともに、慣れ親しんだ重要表現を活用し、ペアやグループワークなど協働的な学びが適宜設定されており、児童の主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫がされています。児童が伝えたいと思うような題材を設定したり、他教科との関わりを明示したりする工夫も見られ、両者とも適切な内容と感じました。外国語活動との接続では、5年生の最初にそれぞれ教室英語や既習の会話の復習があります。

また、その頁だけでなく、随所に既習の表現がスパイラル的に盛り込まれております。

中学校との接続についてですが、NEW HORIZON Elementary では、最後の単元で中学校生活について考え、巻末で今まで学習した表現を確認する学習があります。ここでも、話す・聞くを核にしながら、自然に読む・書く活動につながっており、中学校英語への橋渡しができていていると感じます。

Junior Sunshine では、巻末に「中学校へつなげよう」が8頁設けられ、視覚的に文法が理解できるようになっています。しかしながら、外国語科においては、文法事項の指導に重きを置く必要はなく、これらの頁の扱いに関しては、配慮を要すると感じました。

調査項目3「構成・配列・分量」についてですが、取り上げられている題材は NEW HORIZON Elementary, Junior Sunshine とともに、5年生で自分や地域のこと、6年生で日本、世界へと広がりを見せて

います。特に NEW HORIZON Elementary はオプションとして、各単元の後に Over the Horizon を設け、前頁までに関連する外国の文化などについて学べるようになっています。

また、別冊の辞書があり、児童が主体的に自分の言いたいことを伝えられるような工夫があります。NEW HORIZON Elementary は1か月で1Unit, Junior Sunshine は1頁1時間の配当となっており、分量が加重にならないように、また進度の目安がつけやすいように工夫されています。

最後に調査項目4, 5「表記・表現, 体裁等」について申し上げます。両者とも、読みやすく手書きに近い書体を採用したり、書きやすい4線を採用したり、誰もが学習しやすい工夫をしています。色遣いも華美になりすぎない配色で、イラストや写真も、内容に則した楽しいものとなっています。

また、NEW HORIZON Elementary は、A4 版を採用し紙面を大きく使うことができるためか、写真が大きく迫力を感じます。また、両社とも、巻末に学習活動に使用する絵カードがありますが、NEW HORIZON Elementary には、全てにミシン目がついており、指導者としては、大変有り難いという意見がありました。

以上で、「東京書籍」NEW HORIZON Elementary と「開隆堂」Junior Sunshine の説明を終わりにいたします。

#### <会長>

ありがとうございました。7社から発行されておりますが、主に「東京書籍」と「開隆堂」について報告をいただきました。ご質問がありましたらお願いします。

#### <委員>

QRコードを通して発音のサポートがされている印象がありますが、「東京書籍」はゆっくりとしたスピードと、ナチュラルな発音のスピードが用意されていました。他の出版社にはなかったように感じましたが、調査部会にてそのような話題はありましたか。

#### <外国語調査部長>

ゆっくりとした発音があると授業の中でも非常に助かるといった意見がありました。

#### <委員>

QRコードが充実しているのは、「東京書籍」と「開隆堂」のように感じました。

#### <会長>

その他にご質問などはありますか。

#### <委員>

来年の5年生は4年生の時に外国語活動を進級してきますが、うまく接続させるためにどのような工夫がされていますか。

<外国語調査部長>

他教科との関わりもありますが、スペルの学習の中でワンクッションおいている点については、どちらも工夫されていると感じました。

<委員>

4月から5月にスペルの学習が入ってくることへの抵抗感があると思います。主に報告があった出版社については、同じような構成になっているとのことですが、その点の心配があります。

<外国語調査部長>

児童の授業の様子を見ていますと、文字に対してははっきりとした認識ではないとしても、外国語活動の中で自分の名前を書く場面がありますので、現場の意見としてはそこまでの抵抗はないように思います。文字の学習が多くなると抵抗感が出てきてしまうこともありますので、正しい文字をおさえながらも親しみをもちながら進めていく必要があります。

一番心配していることは、担任の先生が文字指導に走ってしまう点です。東京書籍の教科書については、あまり文字を書くといった構成ではなく、音声に重点を置いている印象がありました。

<会長>

その他にご質問などはありますか。

<委員>

中学校での学習との連動性や整合性についてはどのような意見がでましたか。

<外国語調査部長>

指導内容に関しては、各社ともに整合性をもっている印象がありますし、どの出版社をみても急激に変化している点はありませんでした。

<会長>

その他はよろしいでしょうか。

それでは、出版社が多い中の調査活動ありがとうございました。

#### **外国語調査部長退室**

<会長>

それでは、調査部会からの報告では「東京書籍」と「開隆堂」について詳しく報告をしていただきました。ご意見などありましたら、お願いします。

<委員>

「東京書籍」については、児童のコミュニケーション能力や表現力を大事にした作りになっている印象を受けました。

「開隆堂」については、目標の文型や表現を数多く練習することにより、それを身に付けさせようといった印象が強いです。

「東京書籍」の教科書は、英語教育の慣れていない担任の先生が授業をする中では、使いこなすのは難しいかもしれないという印象はありますが、目指すところに近いのは「東京書籍」だと考えます。自分で表現する活動を大事にしていることから、プレゼンテーションのような自由度が高い活動がうまく含まれている点も推薦する一つになります。

<会長>

ありがとうございます。その他のご意見はありますか。

<委員>

英語の授業に慣れていない先生のことを考えれば、「開隆堂」の教科書がよいと思いますが、「東京書籍」と「開隆堂」では目指すところの違いがあると印象受けました。

<会長>

ありがとうございます。その他はいかがでしょう。

調査部会からの報告や委員からのご意見では、「東京書籍」のご意見が多いように感じました。

それでは、「東京書籍」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

#### 採択理由書(案)配付

<会長>

理由書については、調査部会からの報告にもありましたが、新学習指導要領の目指す部分も記載されています。採択理由書については、こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし



<会長>

ありがとうございます。

**調査報告書, 教科用図書見本本配布  
算数語調査部長入室**

<会長>

それでは, 算数部会の調査報告をよろしくお願いいたします。

<算数調査部長>

算数部会での調査内容について, ご報告させていただきます。算数部会では, 6社の教科書について調査をし, その結果をまとめたものがお手元の資料です。その資料を元に, 各教科書の特徴, 特に良い点について簡単にご報告させていただきます。

「東京書籍」の特徴は次の4点になります。

1点目は, 単元の導入で, 既習事項と関連させた話題や, 日常現象や生活経験の話題を対話形式で掲載し, これから学習する内容への関心・意欲を高める工夫がされていることです。

2点目は, 学級などの友達同士で考え方を説明し合う場面を多く取り入れ, 数学的活動の楽しさや良さに気付けるよう工夫されていることです。併せて, 人物やキャラクターの吹き出しを多用して, 考えるヒントや既習事項に気付かせる配慮がされています。

3点目は, 問題場面に写真や絵図を多用することで, 児童の活動意欲を引き出したり, 身の回りにある算数に気付かせたりする工夫がされていることです。特に数量の関係を捉える場面では, 日常生活との関連を意識し, 日常的に体感している数量と比較することで, その関連が捉えやすくなっています。

また, ものさしやコンパス, 分度器の使い方などでは, これらを使う技能が習熟を図れるように, 見やすく取り扱える工夫がされています。

4点目は, 学習内容の配列についてです。数と計算の領域, 特に, 小数・分数の学習では, 意味と計算の仕方を続けて配列し, 6年の図形の領域では, 平面図形と空間図形を連続して配列しており, 系統的に学習できるよう配慮されています。そのため, 1年生には「さんすうのとびら」というスタートカリキュラムに基づいた別冊が用意され, 系統性が意識されています。

続きまして, 「大日本図書」の特徴は次の5点になります。

1点目は, 体裁に関することで, 全学年とも教科書を一冊にまとめてあるということです。そのために, 当該学年で学習する内容を見通すことができ, 既習事項の確認や学び直しが容易にできるようになり, 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるのに有効であると考えます。

2点目は, 練習問題が豊富なことです。単元末には「たしかめ問題」や「算数たまたまこ」, 単元間には「復習」と豊富に問題を配し, 基礎的な内容の確認から発展的な内容まで, 十分な量の問題が用意されています。中には, 小単元の学習の後に「練習」を入れたり, 巻末に補充問題を掲載したりして, 個に応じた主体的に学習を進めることができるようになっています。

3点目は、計算の仕方や考え方を書き込むスペースを意図的に取り入れられており、数式や言葉で説明する活動を充実させています。

また、一連の問題解決の道筋を、実際の授業場面に即して写真やイラストで示してあり、筋道を立てて説明するモデルが複数示されていて、多様な考え方を導く工夫がしてあります。

4点目は、問題解決の重要な手立てとして数直線を位置付け、各学年で積極的に活用し、そのよさに気付かせる工夫が随所に見られることです。

5点目は、単元の初めや単元末などに既習事項や単元の学習を振り返る場面を設定し、学習への活用や学習の振り返りの視点を示して、言語活動や学び合いを促す工夫がされていることです。単元によっては、更に学習を広げる活動を促すものもあります。

続きまして、「学校図書」の特徴は次の3点になります。

まず1点目は、単元の導入や学習問題に、身近な場面であることを示す絵や写真、イラストを多く用いて、児童の興味・関心を高め、問題を把握しやすくする工夫がされていることです。

2点目は、単元の学習を振り返り、単元で学んだことを生活に生かして身の回りの問題を解決したり、思考力や表現力を高めたりする頁「できるようになったこと」と「まなびをいかそう」などが設けられていることです。問題を新たに発見したり次の学習につなげていくことができます。さらに、他者と協働で問題に取り組み、話し合いを促す問題等も掲載されています。

また、6年生には、中学校への接続を意識し、小学校で培ってきた見方・考え方を振り返り、中学校の学習の一部が紹介されている「中学校へのかけ橋」という別冊があるのも特徴の一つです。

3点目は、AB版という紙面の大きさを生かした紙面のレイアウトです。例えば、ものさしやコンパス、分度器の使い方などこれらの用具を使う場合に、実際に書き込めるスペースが大きく取ってあったり、手順に従って連続的になるような図や写真を用いたりして、技能の習熟が図りやすくなっています。

続きまして、「教育出版」の特徴は次の3点になります。

まず1点目は、単元末のまとめに掲載されている4コマ漫画です。他社にはないもので、単元の学習内容を4コマ漫画にまとめ、振り返りを簡単に行うことができるように配慮されています。振り返りの内容は、知識・理解面や考え方で、以後の学習に生かしたい内容が盛り込まれています。

2点目は、思考の場面を表した絵を多用したり見開きにしたりして問題の把握を容易にしています。さらに、その解決方法を黒板を背景にして2つ並べて示し、比較することから、その考えについて、そのつなぎ方、広め方、深め方など数学的な考え方の整理を促そうと工夫していることです。

3点目は、「学びの手引き」という頁です。学年の初めには、算数で使いたい言葉や考え方を示し、問いが連続するような学習に生かし広げられるように記号や言葉が配慮されています。また、数直線の書き方や平行線、垂直線の書き方なども、複数の学年で繰り返し掲載されています。

続きまして、「啓林館」の特徴は次の4点です。

1点目は、1時間で何を学習するのか、どんなことが分かったかが明確に示されていることです。調べたり考え方を伝え合ったりする場面で、最初に活動の「めあて」が示され、最後に、その「まとめ」が図や数式、言葉等で示されていて、一貫性のあるつくりになっています。

2点目は、学年の初めの段階に「わくわく算数学習」という頁を入れて、算数の学び方や話し合いの仕

方を例示していることです。併せて、解決方法の表現の仕方や、学習のまとめ・振り返りの仕方についても学ぶ機会になっています。

3点目は、実際の授業場面に即して紙面が構成されており、キャラクターの吹き出しにより問題解決が図られていく学習の流れが示されています。

また、計算の仕方や考え方などを書き込むスペースを意図的に取り入れられています。授業を進める上で考え方のプロセスや着目すべき視点が分かりやすくなっています。

また、用いられる図も、線分図だけでなく数直線図など、考え方に応じて、根拠に基づいた筋道を立てて説明するなど、個に応じた思考を正しく論述する仕方を学ぶことができるよう工夫していることです。

4点目は、各学期末に学習した内容を発展的に日常生活に見方・考え方を活用していく頁が用意され、巻末には算数数学が、今後どのような場面で活用され使われているのかの具体的な例が示されていて、興味関心を持たせたり主体的な学習の取り組みを促したりしています。

続きまして、「日本文教出版」の特徴は次の3点になります。

1点目は、2年生以上の学年の巻頭にあるオリエンテーションの頁です。学年の初めに問題解決の手順やノートのつくり方、教科書の使い方が丁寧に示され、巻末には「学び方ガイド」で、算数で使いたい言葉や考え方、学習の流れなどがまとめてあり、以後の学習の手順に視点が持てるように配慮されています。

2点目は、単元に入る前に「次の学習のために」の頁が設けられ、関連する既習事項の確認や技能の復習ができるよう工夫されていることです。

3点目は、単元末や巻末の練習問題が充実しています。「算数マイトライ」など様々な頁で、基本の確認、補充から発展へと段階的に問題が設定され、個や必要に応じて学習を進めることができるよう工夫されています。

6社の良い点を報告させていただきました。

続きまして、調査をしていく中で、特に話題になった2社の教科書について、更に説明をさせていただきます。

はじめは、「大日本図書」です。まず、紙面の構成としては、右側の頁と次の頁で1時間扱いにしている箇所が多く見られます。右側の頁で、予想を立て、調べ方を考えるよう促し、その単元の学習でポイントとなる考え方の場合には、自分の考えを書き込むスペースを広く設けている場合もあります。そして、次の頁には複数の考え方を示し、その考え方を言葉で説明する活動を求めています。このような紙面構成は、見通しをもち筋道を立てて考え、解決方法を表現する能力を育成するのに有効であるだけでなく、数学的活動の楽しさやよさを味わわせることもできると考えます。

学習課題に目を向けると、実際につくったり測ったり、また、作図したりする活動を多く取り入れられており、児童が興味をもって主体的に活動に取り組めるよう十分配慮されています。この教科書では、問題を解決するための手段として数直線を重要視しているのも特徴です。演算決定は多くの授業場面で課題となっている内容です。5・6年の教科書では、後半に「数直線図のかき方」の頁を設け、数直線を用いると数量関係の把握がしやすいことに加え、演算決定がしやすいことを説明しています。

先程も申し上げましたように、全学年とも合本となっているところがこの教科書の大きな特徴です。学年の学習内容をすぐ見通すことができるため、振り返りが活用させ容易にできるよう、数と計算、量と測定、図形、数量関係の4領域をバランスよく配列し、児童の学習意欲を持続させつつ、スパイラルに学び直しができるよう単元が配列されています。

さらに、系統性を重視し既習事項を次の問題解決の手掛かりとするために、裏表紙の前の頁には「ひらめきアイテム集」と「ひと目でわかるまとめ」を設け、前学年までに学んだ用語やきまり、獲得した考え方をすぐに活かせるように工夫されています。

次は、「啓林館」です。学習のめあてとまとめが対になって示されているため、毎時とも目標への見通しを見失わずに1時の学習を進められよう配慮されています。教師も児童も見通しをもって学習を進めることができると考えます。

また、学習を進めるに当たっては、人物やキャラクターの吹き出しを多用して、問題解決の標準的な手順が具体的に示されており、既習との違いに気付かせたり、結果や方法に見通しをもたせたりする工夫が見られます。更に、解決方法のヒントを与えるなど、児童一人一人が、主体的に学習を進められるよう工夫がされています。授業場面での学習の具体的な方向が把握しやすいという点では、学びやすい、教えやすいと見ることもできます。

この教科書では、問題を解決するための手段としてテープ図、線分図、関係図、数直線図など問題と考え方に応じた多様な図を用いていることにも特徴があります。1年のブロックなどの具体物での操作図から2年のテープ図というように発達段階に応じながら、繰り返して用いられ6年の「線分図」まで、児童の考え方に合った図の提示により、数量関係の把握がしやすく、それに伴って演算決定もしやすくしているという工夫があります。

また体裁についてですが、1・5・6年が合本で1冊、2・3・4学年が上下分冊の2冊です。低学年では数と計算、領域の内容に対する興味・関心の持続から、量と測定、図形、数量関係の4領域が連続しないような配列になっており、高学年では既習事項を積み上げて考えていくことや技能の習熟が確保されるように、先程の4領域をある程度、集中して配列するなど、児童の学習意欲を持続させつつ、領域毎に学びが段階的に深まるように単元が配列されています。

さらに、数学的活動を重視し、裏表紙の前の頁には薄紙の作業用紙や分度器など、その学年での数学的活動に必要な物が備わり、活動の充実に役立てることができます。巻末には「算数資料集」「学年のまとめ」「さくいん」が配されていて、前学年までに学んだ用語やきまり、獲得した考え方をすぐに検索できるように工夫されています。

以上で、調査部会からの報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございます。それでは、調査部会の報告に対してご質問がありましたらお願いします。

<委員>

新学習指導要領では、算数的活動から数学的活動になりましたが、対話的な活動も求められているか

と思いますが、そういった視点からみた際はどのような印象がありますか。

<算数調査部長>

数学的活動の重さという点では、「大日本」、「啓林館」の教科書どちらもよく配慮されており優劣が付け難い印象がありますが、「啓林館」の教科書では、巻末に数学的活動がすぐに展開できるようなものが付録としてついています。新学習指導要領の視点からみるとそこまでの差がないように感じました。こういった付録があれば方向性が示しやすい点がありますが、これがあることによって使わなければいけないといった意見も出てくることは考えられますので、自由度としては「大日本図書」の方があると思います。

<会長>

その他はいかがでしょうか。

<委員>

授業だけで覚えられればよいのですが、知識の定着ということになれば、類似問題の練習や自主学習が必要になってくると思います。そういう意味では、どちらの方が振り返った際に練習できるかという点ではどうでしょうか。

<算数調査部長>

「大日本」の教科書については、能力、習熟に応じて問題が多く用意されています。なおかつ、単元の間や終了時、巻末に多様に用意されていますので、家での学習でも取り組みやすいといった点があります。

「啓林館」についてですが、新しい学習の前にやっておくことなど目的別に明確に示されています。調査員の中で出た意見としては、使い勝手として両社とも視点は違っていますが、自宅での学習や適応問題において習熟を深める点では、両社ともに工夫されています。

<委員>

プログラミング学習の視点ではいかがでしょうか。

<算数調査部長>

どの教科書もプログラミング学習については、問題を取り上げられています。特に多くかかれていたり、使いやすいといった意見は調査部会の中ではなかったと思います。

<委員>

割合の部分について「啓林館」と「大日本図書」の教科書を比較しましたが、「大日本図書」は数直線図を2本で記載されていますが、「啓林館」だと割合では1本で速さだと2本で記載されていました。そのあたりについては調査部会で話題になりましたか。

<算数調査部長>

「大日本図書」の数直線図についてですが、非常に統一感があり児童の混乱を招くことはないように思います。

「啓林館」の教科書については、割合の箇所、線分図については出現している単元の最後になります。これは中学校に繋げるためであると考えますが、多様な考え方を示す際に必ずしも2本で示すことが良いとは限らないため、数直線図や線分図がたくさん用意されていて単元や考え方、内容に応じて示されており必ずしも混乱を与えるものではないといった意見もありました。

<会長>

その他はいかがでしょう。

<委員>

「大日本図書」の教科書は、全ての学年で1冊に集約されていますが、他の教科書会社は2冊に分冊されていますが、それらの違いはどのような違いがありますか。現場の先生としての意見として、どちらの教科書の方が使いやすいといった意見があれば教えてください。

<算数調査部長>

1つ目のご質問についてですが、1冊と2冊に分冊で調査部会でも話題になりました。その差について調査を行いました。決定的な理由を見つけることができませんでしたが、唯一、学年の学習内容を見通した際に1冊の方が良いといった意見や、利便性の問題などがありますが、明確な意図を見つけ出すことはできませんでした。

<委員>

紙の厚さや知識的の違いは感じましたか。

<算数調査部長>

分冊をしている教科書会社は紙の厚さを薄くしていると感じています。

また、単元についてですが、学習すべき内容を2分割しているなどの特長はありましたが、決定的な部分を見出すことが出来ませんでした。

2点目についてですが、編集の方向性、教科書に対する問題解決型の学習などの方向性が出ていると思います。

「大日本図書」についてですが、実際の写真を使用し授業を想起させるような作りになっており、このようなライブティックな展開を重視しています。

「啓林館」についてですが、児童の対話形式で実際の授業が進んでいます。いずれにしても、方向性としては、新学習指導要領に沿った問題解決型の展開がなされていると感じました。

調査活動をしていく中で、特に良い点を特徴的に示したのですが、「大日本図書」は5点、「東京書籍」

が4点,「啓林館」が4点ございました。「東京書籍」と「啓林館」が4点ございますが,「啓林館」はめあてとまとめが必ずできており,はっきりと示されています。

<会長>

ありがとうございました。その他ついてはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは調査部会の報告ありがとうございました。

### **算数調査部長退室**

<会長>

ただいま調査部会から,6社の調査報告をしていただきました。その中でも,「大日本図書」と「啓林館」について詳しく報告をしていただきました。委員の中で協議をお願いします。

<委員>

定着させるために練習をすることをみていくと,「大日本図書」の方が練習問題や定着するような問題が多くあるように感じました。

<会長>

その他ご意見はありますでしょうか。

<委員>

数学的活動に沿った教科書になっているかという視点ですが,実際に活動を促すような場面は多々あるように感じたのは,「大日本図書」の教科書のように思いました。

<会長>

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

調査部会からの報告では,良い点として「大日本図書」が多少多いということと,委員のご意見の中での練習課題といった意見がありました。全体的には,「大日本図書」の教科書についてのご意見が多いように感じました。算数については,「大日本図書」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

それでは,算数については「大日本図書」の教科書を採択いたします。採択理由書について検討をお願いします。

## 採択理由書(案)配付

<会長>

理由書が配布されましたが、委員からご意見があった豊富な練習問題や特徴が記載されております。  
こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

## 調査報告書, 教科用図書見本本配布 図画工作調査部長入室

<会長>

それでは、図画工作部会の調査報告をよろしく願います。

<図画工作調査部長>

図画工作調査部会での調査内容についてご報告いたします。

図画工作調査部会では、「開隆堂」及び「日本文教出版」の2社の教科書について調査しました。調査報告書にまとめましたように、両社とも図画工作教育において実績のある出版社ですので、新学習指導要領改訂の趣旨を十分に踏まえた内容となっています。

まず、報告書の項目1の「教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」は、両社とも図画工作科が目指す資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成に十分適した内容となっています。

続きまして、項目2には3つの観点があります。とくに(2)の観点「主体的・対話的で深い学びのために、どのような工夫が見られるか」では、「開隆堂」は3・4年下に、発想・構想を広げるための手立てや対話的な学習のための具体的な話合いの仕方を掲載しています。「日本文教出版」は、友達の作品を見合う活動の様子を数多く掲載し、対話的で深い学びが実践しやすいように配慮しています。

項目3の(1)の観点「題材の構成や配列には、どのような特色があるか」では、「開隆堂」と「日本文教出版」の両社とも適切であると言えます。

また、(2)の観点「題材の分量には、どのような特色があるか」では、「開隆堂」は各教科書とも20前後で、各領域がバランスよく編集されています。それに対して、「日本文教出版」は20から24と分量がやや多いですが、各領域のバランスがよく、授業で題材を選択する幅が広がると考えられます。

項目4は、2社ともよく工夫されている点が多数見られました。しかし、巻頭の頁の取扱いに2社の違い



が見られました。「開隆堂」は、2から5頁を1年間の見通しをもたせるために、カリキュラム編成を目次にしています。それに対して「日本文教出版」は、各教科書とも巻頭から5頁までに、児童の興味・関心を高めるための身近にある様々な素材や美術作品などを意図的に掲載しています。また、児童が熱心に学習に取り組む姿を大きく紙面いっぱいに掲載し、深い学びの姿がイメージできるように工夫しています。

項目5の体裁等では、両社に大きな違いは見られませんでした。しかし、総頁数を比べると、「開隆堂」はどの学年も58頁、「日本文教出版」は66から68頁で、「日本文教出版」の方が「開隆堂」より情報量が多くなっています。「開隆堂」は、各題材にQRコードを掲載しており、ICT機器を活用した学習がしやすくなっています。また、両社ともデジタルコンテンツが活用できるように工夫してあります。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。

調査報告に対してご質問がございましたらお願いします。

<委員>

12上下、34上下、56上下とありますが、実際の現場ではどのように活用していきますか。

<図画工作調査部長>

各学校の実態に合った年間指導計画がありますので、題材の配列については56上下を例としますと、必ずしも下の教科書を6年生限定ということではなく、フレキシブルに対応できるようにします。2冊を一緒に持たせるやり方もとっていると思います。

<会長>

その他はいかがでしょうか。

<委員>

図画工作では造形的な学習をすることも狙いの一つになっているかと思いますが、絵を描くということが少なくなっているように思います。どの部分に重点を置いているかなどの意見はありましたか。

<図画工作調査部長>

両社ともに題材数においては若干の幅がありますが、それほど領域に関しては、大きな差が無い印象を受けました。

<会長>

その他ご意見などはいかがでしょう。

<委員>

主体的・対話的で深い学びの部分で、「開隆堂」は3・4年下にまとまっているとのことですが、「日本文教出版」についてはどうですか。

<図画工作調査部長>

「開隆堂」は3・4年下の教科書に話し合いのしかたの頁がありました。発達段階を考えるとちょうどその時期に学習することが良いとの判断だと思います。

「日本文教出版」については、そういった頁はなかったのですが、児童に互いに学びあっている姿写真が多く掲載されている印象を受けました。

<会長>

その他ご意見などはいかがでしょう。

<委員>

私も対話的の部分が気になっていました。

「日本文教出版」については、吹き出しを使い対話をしています、それが対話的で深い学びの部分の意味となるのかといった部分では気になる点ではあります。

<図画工作調査部長>

その点については、「日本文教出版」と「開隆堂」で大きな差はないように感じました。写真を多く使っていますが、それにより対話的な部分を補っているのかといった点では難しいかと思いますが、教科書に掲載するには限界があるといった印象を受けました。

<会長>

その他いかがでしょう。

<委員>

共同で制作した作品が日本文教出版には多いように感じました。また、「開隆堂」については、個人で作成したような作品が多い印象を受けました。

また、示された例に見られる特徴というのは、教室で授業を行う先生にとってモデル的になっていくものなのでしょうか。

<会長>

小学校の場合は、美術の免許を持っていない先生が多いため、そういった先生にとって教科書は一つの資料になります。教科書もバランスよく配置されていないと、抜けが出てきてしまうため共同作品も取り上げられていたほうが現場の先生も助かると思います。

<委員>

その作業の中で、自分の考えや相手の考えを話したり、聞いたりなどの作業もついてくることから深まりがあると思います。

<会長>

よろしいでしょうか。

それでは、調査活動ありがとうございました。

### **図画工作調査部長退室**

<会長>

委員の中で、ご意見などございましたらお願いします。

<委員>

図画工作を教える先生は、教科書を見て次の授業にどのようなことを行うかなどを決めていきますが、材料などは身近なものでないと揃えるのが難しくなったりしてしまいます。先生にとってどちらがやりやすいかによってだと思いますが、オープンスペースがあればダンボールを使用した作品を残すことができ活動の証を残すことができます。絵であれば壁に貼ることができますが、先生にとって造形的な目標はあるとは思いますが、児童達に活動しやすい教科書が良いと思います。そういった意味では、「日本文教出版」の教科書の方がよいと感じました。

<会長>

その他はいかがでしょう。特によろしいでしょうか。

調査報告の内容や委員のご意見では「日本文教出版」の教科書に対する意見が多いように感じました。「日本文教出版」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

採択理由書について検討をお願いします。

### **採択理由書(案)配付**

<会長>

採択理由書について検討をお願いします。

調査報告にもありました制作活動などの内容も記載しております。こちらの採択理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

### **調査報告書, 教科用図書見本本配布**

#### **保健調査部長入室**

<会長>

それでは、保健部会の調査報告をよろしくお願いいたします。

<保健調査部長>

保健部会での調査内容について報告させていただきます。

保健部会では、「東京書籍」、「大日本図書」、「文教社」、「光文書院」、「学研」の5つの教科用図書について調査しました。その結果をまとめたものがお手元の資料になります。その資料を基に、各教科書の特徴について簡単にご報告させていただきます。

最初に「東京書籍」についてですが、この教科書は各章の扉に、学習の目標や学習の進め方が明示されており、各小単元がステップ1「気づく・見つける」、ステップ2「調べる・解決する」、ステップ3「深める・伝える」、ステップ4「まとめる・生かす」の4構成になっています。

また、最後に資料も付け加えられています。

さらに、文字や資料が大きく示されていて大変見やすく、教科書とワークシートが一体化しているという特徴があります。児童や経験の浅い若い先生にとっても優しい教科書になっております。最後のまとめを生かすといったところでも、前に学習した部分も違う頁にまとめて書くことができ、自分の言葉で考えを書けるようなスペースも設けられています。

次に「大日本図書」についてですが、この教科書は他の教科書がA4版であるのに対し、AB版になっています。AB版のため文字が多少小さくなっていますが、教科書の軽量化にも対応していると思います。単元の始めに「学習ゲーム」を掲載し、児童がゲームを行うことで課題に気づき、意欲的に取り組めるように工夫されており、巻末に学習シールもつけられています。

続いて「文教社」の教科書についてですが、「振り返ってみよう」で自己の課題を発見し、「新しい自分にレベルアップ」で学習したことを今後の生活に生かせるようになっており、主体的な学びが強調されています。

続いて「光文書院」についてですが、この教科書は巻頭にトップアスリートから児童へのメッセージを掲

載しており、保健を学ぶことの大切さを、児童が読みたくなるようなストーリー形式で示し、イラストと会話で分かりやすく伝えています。

最後に学研についてですが、この教科書は全体的に資料が豊富です。その中でも、科学的な資料を取り上げた「かがくの目」を随所に設け、「見えないものを見える化」した資料を掲載しています。

また、1単位時間が「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」の3段階で構成されています。

最後になりますが、調査部会では「東京書籍」と「学研」の2社が使いやすいのではという意見が多かったことを報告いたします。

<会長>

ただいま調査報告がありましたが、ご質問などありましたらお願いします。

<委員>

情報量としては、「学研」の教科書の方が多い分先生が調べなくても分かることから児童達との共有がしやすいのかなという印象がありますが、その点についてはどうでしょうか。

<保健調査部長>

「東京書籍」には、デジタルコンテンツが多くあることからそこで対応ができると思います。

<委員>

ワークシートにて児童が直接書き込むことが出来ることは非常にメリットに感じますがその点はいかがでしょう。

<保健調査部長>

今までは、ワークシートを印刷して使用していましたが、現場では必ずしも全てを使用するということではありませんでした。

<会長>

その他はいかがでしょう。調査部長へのご質問はよろしいでしょうか。

調査報告ありがとうございました。

## 保健調査部長退室

<会長>

保健調査部会から5社についての報告をしていただきましたが、特に意見が多かった「東京書籍」と「学研」について詳しく報告をしていただきました。「東京書籍」の使いやすさと、学研の情報量の多さといった意見もありました。

委員の中でご意見などがあればお願いします。

<委員>

「東京書籍」の教科書が使いやすく良いと思いました。学習の進め方が明示されており、各小単元がステップ1「気づく・見つける」、ステップ2「調べる・解決する」、ステップ3「深める・伝える」、ステップ4「まとめる・生かす」の構成になっており、非常に分かりやすく学習の流れがはっきりしていて使いやすいと思いました。主体的・対話的といった部分でも会話をしながら進めることができると感じました。

資料の量については、学研の方が多いのですが、必要十分の資料の量は「東京書籍」にも備えてあると思いますので、先生方がやりやすいといった意見を尊重して東京書籍が良いと思います。

<会長>

ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

<委員>

デジタルコンテンツについてですが、学研はインターネットを使用して別のサイトにアクセスするのに対して「東京書籍」はすぐに動画などを見ることができます。

<会長>

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、調査部会の報告や委員からのご意見などでは「東京書籍」についての意見が多いように感じました。「東京書籍」の教科書を採択するということでよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

ありがとうございます。採択理由書について協議をお願いします。

**採択理由書(案)配付**

<会長>

学習の連続性や発展的な学習、振り返りなどについて記載しています。こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

**調査報告書, 教科用図書見本本配布**

**音楽調査部長入室**

<会長>

それでは, 音楽部会の調査報告をお願いします。

よろしくお願いします。

<音楽調査部長>

小学校音楽科教科書の調査内容についてご報告させていただきます。

音楽科の調査部会では, 「教育芸術社」と「教育出版社」の2社の教科書について調査をいたしました。

最初に, 「教育芸術社」の教科書の特徴について, 4点ご報告させていただきます。

1点目といたしまして, まず, 3年生の62頁, 4年生の27頁をご覧ください。

このように, 我が国や郷土の文化を受け継ごうとする気持ちを育てるための題材が, 各学年で取り扱われております。和太鼓パートを口唱歌で歌ったり, 声の出し方をまねしながら民謡を歌ったりする活動など, 楽譜を読むことが苦手な児童でも取り組みやすい体験型の鑑賞学習が工夫されています。

また, 4年生の28・29頁をご覧ください。調べる観点や方法が掲載されており, 総合的な学習の時間や社会科と関連づけて, 音や音楽と関わるような内容となっております。

2点目といたしまして, 3年生の56頁をご覧ください。

ここに, 男の子と女の子がつぶやいている吹き出しがございますが, このような吹き出しによって気付いてほしい点や創意工夫のポイントなど, 精査した内容で示しており, 児童が対話的で協働的な学習がスムーズに進められるような内容となっております。

3点目といたしまして, 題材の構成についてですが, 低学年では歌唱・音楽づくりの教材, 中学年では器楽教材, 高学年では鑑賞教材を多く取り扱っており, 低・中・高学年での発達段階に応じた重点領域を置きながら基礎・基本の定着を図り, 6年間を通して系統的で学びがつながっていく題材構成となっております。

また, 1年生の6頁から11頁をご覧ください。保育園や幼稚園などでの経験を生かしたスタートカリキュラムを意識した題材となっており, 2年生～6年生でもオリエンテーション的な題材を取り上げ, 音楽活動と通じて友達づくりがスムーズに行われる配慮が見られます。

最後に, 4点目といたしまして, 装丁と使用上の便宜についてです。

全体的にシンプルで、識別しやすい配色、優しい色調となっております。イラストや写真などのサイズや数量、楽譜や説明文を目立たせるようなレイアウトが見やすく、すべての児童にとって使いやすく集中して学習できるような、特別支援教育の視点に立った配慮が見られます。

次に「教育出版」の教科書の特徴について、同じく4点ご報告させていただきます。

1点目といたしまして、5年生の35頁をご覧ください。我が国の自然や人々の暮らしと関わろうとする気持ちを育てるため、「すもうの呼び出し」や「商売の声」など、暮らしの中にある特徴的な声の出し方や節回しのまねをする体験型の音楽活動を取り扱い、生活や社会の中での音楽の役割について考えさせる工夫が見られます。

2点目といたしまして、4年生の56頁、5年生の46頁をご覧ください。このように、音楽づくりにおいて多数のグループ活動例が紹介されており、対話的で協働的な学習が発展的に進められるような内容となっております。5年生の方は、ゆっくりと考え様々な声の出し方など主体的で協働的な内容が盛り込まれております。

3点目といたしまして、目次をご覧ください。題材の構成についてですが、基礎・基本を身につける主要部分の題材は、上方に記載されている通り各学年とも7から8の題材で、それ以外に掲載されているたくさんの教材は、選択オプション部分としての題材で取り扱われており、児童の実態に応じて、教師が組み合わせて指導できるような内容になっております。

最後に、4点目といたしまして、装丁および使用上の便宜等についてですが、全体的に、コントラストがはっきりとした配色使いで、鮮明な紙面に仕上がっています。

また、3年生の8頁、4年生の77頁をご覧ください。透明なセルシートやA3サイズの折り込み資料が採用されており、児童の興味・関心を高める工夫が見られますが、安全に、集中して学習するためには、取り扱い方について十分な指導が必要であると考えます。

総合的に見ますと、「教育芸術社」の教科書は、基礎・基本をていねいに取り扱い、すべての児童が取り組みやすく、音楽を専門としない教師にとっても指導しやすい内容となっており、「教育出版社」の教科書は、選択オプションや発展的な内容が多く、音楽的な能力の高い児童、音楽専科の教師にとっては興味深く取り組める内容となっております。

以上のことから、調査部会としては、「教育芸術社」の教科書が、地域の児童の実態にあったものであると考えます。

<会長>

ありがとうございました。調査部会の報告をしていただきましたが、委員からご質問などがございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。それでは調査活動ありがとうございました。

**音楽調査部長退室**

<会長>

それでは、委員からご意見をお願いします。



調査部会からの報告では、「教育芸術社」の教科書について詳細に報告をしていただきました。  
現場の意見を尊重することから「教育芸術社」の教科書を採択でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。採択理由書について協議をお願いします。

#### 採択理由書(案)配付

<会長>

調査報告にもありましたが、特別支援教育の視点に立った配慮なども記載されております。こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございました。

以上で本日予定されていましたが、各教科の調査報告は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

それでは、以上で議事を終了いたします。

<事務局>

それでは、事務局より要項にございます今後の予定についてご説明いたします。

次回の「第3回教科用図書選定協議会」につきましては、令和元年7月5日金曜日にて、この会場で午前10時より開会となりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、「閉会のことば」を 本選定協議会副会長 笠間市教育委員会教育長 今泉 寛 様お願いいたします。

開会のことば 副会長 笠間市教育委員会教育長 今泉 寛 様

閉会時間 午後3時50分